

農業担い手メールマガジン（第102号）

インデックス

- 現場の皆さんへ ～第11回全国農業担い手サミットが三重県で開催！～
- 事業活用のポイント
～地域担い手経営基盤強化総合対策実験事業の第2次募集について～
- 農業担い手経営相談コーナー ～米の作況指数の算定方法と見方～
- お知らせ ～20年度補正予算に原油価格高騰対策が盛り込まれました～

現場の皆さんへ

～第11回全国農業担い手サミットが三重県で開催！～

2008年11月13日から14日にかけて、三重県下で「第11回全国農業担い手サミット in みえ」が開催されます。1998年に「認定農業者サミット」として立ち上げられた本大会は、2006年の長崎大会で「全国農業担い手サミット」と改称され、従来の認定農業者に加え、地域で活躍する女性農業者や集落営農組織の代表者などの担い手の皆さんを幅広く対象とする形で再出発しました。

大会の目的は、農業の担い手の皆さんが一堂に会し、農業経営の現況や課題について認識を深めるとともに、相互研鑽・交流を行うことにあり、大会を通じて、参加者自らの農業経営の改善と地域農業の発展に貢献することを目指しています。

今年度は、担い手サミットとしては初めて、皇太子殿下にご臨席いただくことになりました。11月13日に伊勢アリーナで開催される全体会では、意欲ある担い手の方々の取組事例報告が行われ、また、今大会から優良担い手表彰の農林水産大臣賞の授与式が行われるなど、大会内容はこれまでよりかなり充実したものとなっています。

また、全体会の前後には、県内各地で地域交流会が開催され、現地研修会や情報交流会を通じて担い手農業者同士で熱心な議論が行われます。

農業・農村を取り巻く情勢は、国内においては、食の安全性に関する消費者の関心がこれまで以上に高まるとともに、世界的な穀物価格の急騰などを背景に、国内の食料供給力を強化する必要性が再認識されつつあります。こうした中、担い手の皆さんが創意工夫を行い個別の経営課題にどう対処していくか、大いに議論していただきたいと思っております。

■ 「第11回全国農業担い手サミット in みえ」大会の詳細はこちら

（参加申込は終了しておりますので、ご了承下さい）

→ <http://www.mate.pref.mie.jp/summit/index.htm>

■ ご意見・ご質問は下記へお願いいたします

→ https://www.voice.maff.go.jp/maff-interactive/people/ShowWebFormAction.do?FORM_NO=120

事業活用のポイント

～ 地域担い手経営基盤強化総合対策実験事業の第2次募集について～

この事業は、認定農業者や集落営農組織など、担い手の皆さんが、融資を主体とした農業機械・施設等の導入を行う場合、融資残の自己負担部分について支援を行うものです。このたび、本事業について、下記のとおり第2次募集を行うこととなりましたのでご案内いたします。

- 支援対象・要件

地域農業の方向性及び成果目標等を取りまとめた「地域構造改革プロジェクト整備計画」を作成した地区内の認定農業者等のうち、規模拡大や法人化、加工、販売など経営発展に関する目標を設定し、経営改善効果の発現が見込まれる者。

「地域構造改革プロジェクト整備計画」は、本事業の実施に際し、事業実施主体である地域担い手育成総合支援協議会が作成するものです。

- 補助率・支援方法

機械及び施設等取得額の3/10を上限に、本事業の事業実施主体である地域担い手育成総合支援協議会から助成金が交付されます。

- 募集期間

平成20年10月27日(月)～11月14日(金)

本事業は、経営発展を目指す担い手の皆さんに大きなメリットがある事業ですので、是非ともご活用いただきたいと思います。詳しい内容については、最寄りの地方農政局にお問い合わせ下さい。

■ 第2次募集の内容については、以下のURLをご参照下さい。

→ http://www.maff.go.jp/soshiki/koukai/kaizenziguyou/management/ninaite_jigyo/index.html

農業担い手経営相談コーナー

～ 米の作況指数の算定方法と見方～

Q . 今年産米の作況指数はどのような見通しでしょうか。また、作況指数の算定はどのようなになってるのか。また、生産者としては、これをどのように見たらよいのか教えてください。

A . 10月30日に公表した「平成20年産水稻の作付面積及び予想収穫量(10月15日現在)」では、今年産水稻の作況指数は、全国で102(作況指数を公表した際には作柄の良否は併記しておりませんが、下記に示す作柄の良否でいえば「やや良」となっており、地域ブロック別でも本年産は全ての地域で作況指数が100を超えています(北海道:106、東北:102、北陸:102、関東・東山:102、東海:101、近畿:103、中国:103、四国:105、九州:101、沖縄:101)。

なお、上記資料では参考として、各都道府県内の作柄表示地帯別の作況指数や、

農家の方が実際に使用したふるい目幅による10 a 当たり収量がわかるよう、ふるい目幅別の重量分布及び10 a 当たり収量内訳も掲載しております。

ところで、「作況指数」とは、水稻の作柄の良し悪しを示す指標で、「10 a 当たり収量」/「10 a 当たり平年収量」により求めます。この場合の「10 a 当たり収量」は、一定期日に、調査ほ場において稲を実際に刈り取り、収量を計測することで推計しています。また、「10 a 当たり平年収量」とは、基準となる収量（平年的な収量）として作成しているものであり、気象の推移や被害の発生状況等を平年並みと仮定したときに予想される10 a 当たり収量のことです。

したがって、作況指数が100より高ければ、平年より作柄が良く、逆に100より低ければ、平年より作柄が悪いということになります。また、冒頭のように、作況指数を基にして「作柄の良否」という区分を用いることがありますが、その区分は、「良」：作況指数106以上、「やや良」：同102～105、「平年並み」：同99～101、「やや不良」：同95～98、「不良」：同91～94、「著しい不良」：同90以下となっています。

このように、作況指数は米の作柄を表すものであり、この作況指数の増減は、米の需給にも大きな影響を与えます。仮に作付面積が前年と同面積だとした場合、全国で作況指数が1ポイント増加すると、総収量は約8～9万トン増えるといわれています。

作況指数が上がれば、一般には市場において米が供給過剰になる可能性が高くなります。しかし、今年産については、全国の作況指数が102となりましたが、豊作過剰となる米について区分出荷を行う「集荷円滑化対策」が適切に実施されれば、需給が大幅に緩和する事態にはならないと考えています。

■ 平成20年産水稻の作付面積及び予想収穫量はこちら

→ <http://www.maff.go.jp/toukei/sokuhou/data/sakutuke-suitou200810/sakutuke-suitou200810.pdf>

お知らせ

～20年度補正予算に「原油価格高騰対策」が盛り込まれました～

平成20年度補正予算に「原油価格高騰対策」が盛り込まれ、肥料や燃油の高騰に対する緊急支援措置が講じられます。また、担い手の皆さんが省エネ機械や施設などを導入する際に、リース料の一部が助成される「担い手経営展開支援リース事業」が拡充されます（簡易経営診断など一定の要件あり）。是非、下記のホームページをご覧ください。

■ 原油価格高騰対策全般についてはこちら

→ <http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/genyu/index.html>

■ 担い手経営展開支援リース事業についてはこちら

→ <http://www.maff.go.jp/ninaite/menu2.htm>

編集後記

秋も深まり、朝晩はかなり肌寒くなってきました。ほとんどの地域で稲刈りも終わり、北海道や東北などでは、冬支度を始める地域もあることと思います。一方、リンゴなどの果樹や秋冬野菜の産地では、これからが収穫の本番です。寒さに負けぬよう、体を温めてお仕事ががんばってください。

メルマガも、皆様のご要望にお応えできるよう、これからも工夫を凝らしながらがんばっていききたいと思います。(S)

- 電子出版：農業担い手メールマガジン
- 発行日：毎月2回発行
- 発行元：農林水産省経営局経営政策課 担当：鈴木
農林水産省担い手ホームページもご覧ください！
～担い手への支援策、認定農業者数等、担い手情報満載！！～
→ <http://www.maff.go.jp/j/ninaite/index.html>
このメルマガの配信申込み、バックナンバーはこちらから
→ <http://www.maff.go.jp/ninaite/mailmagazine.html>
このメルマガの配信変更、配信解除、パスワード再発行等はこちらから
→ <http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/index.html>